

〈連載〉

あなたもできます
「留学自分流」

第6回

第2の故郷をつくるために ——「住居」について

小川翔平(広報青年部会)

自由か現地の人との接触か

今 今回は「住」についてです。

留学先によって住まいの探し方は様々です。始めに住み方をいくつかリストアップしてみます。

- ・ワンルーム（一般的な一人暮らし）
- ・ドミトリー（学生寮）
- ・シェアハウス（共有スペースのあるアパートや寮）
- ・間借り（一般家庭の空き部屋を借りる。ホストファミリーによる干渉が少ない）
- ・ホームステイ

これらの中でワンルームが一番個人的な空間、時間が多く確保でき、反対にホームステイが一番他人との接触や干渉が増えます。国によってはこの中からさらに、家具の有無、契約内容、家賃体系等により種類が細かく分けられることもあります。

どれが一番良いということはありません。ホストファミリーがいれば24時間、365日、ずっと現地の人と関わることで、会話の練習もでき、文化についてもより深い部分で触れることができます。その分、学校の友達と遊びに出かける機会が減ってしまったり、自由な時間があまり作れないという問題点もあります。家庭によっては門限が決められてしまうこともあるようです。家の

種類に関して詳しくは書ききれないのでここまでにします。

家は見つけてもらう

住み方の次は住む場所です。学校の近くが良いのか、ショッピング等に便利な繁華街が良いのか、などについてです。また治安はどうか、電車やバス等の交通機関は利用できるか等も大事です。ほとんどの場合は後に述べる方法で日本で申し込みをして、実際に現地での家を見るのは留学先に行ってからになります。希望事項があれば申し込みの際にメモとしてリストアップしておきましょう。

それでは、どのように住居を探すかについてです。方法は大きく分けて3つ。

- 1、斡旋機関に依頼する。
- 2、現地の知り合いに頼む。
- 3、自分で手配する。

今回はここまでです。次回、3の住居を自分で手配する方法についてご紹介します。